

---

# 二番目のノノ

如月野人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

二番目のノノ

### 【Nコード】

N1911F

### 【作者名】

如月野人

### 【あらすじ】

田舎で過ごすノノのある日の出来事です。

『二番目のノノ』

…それはとても甘やかで苦たらしい記憶。

「ばあちゃっ」

自分とお姉ちゃんが預けられたママの親…じいちゃ、ばあちゃの家は裏手に山があり、強い吹き下ろしの風でもびゅうびゅう吹けばペコンと屋根が剥がれ、そのまま倒れるんじゃないかと思うような古びた平屋だった。

川に流れる水は綺麗で、夏場に冷たいのが良いと思っただけ近くに店はなくて、街では当たり前なコンビニエンスストアもない。唯一…本屋と薬屋と文房具屋が一緒になった…それが良いのかはわからない…雑貨屋一件が何かを得られるアイテム屋だ。

夏休みでもおない歳の他の子に会うのはマレだったし、たまたま出会っても自分是要領よくは喋れず、相手からヨソから来た子だと言う気持ちでヒシヒシと伝わって来て息苦しかった。

あっさりとゴム飛びに混ざるお姉ちゃんを無視して先に家に帰った事もある。

お姉ちゃんと色違いのブルーのサンダルを地面に擦り付けるように。

「のの。」

お客さんいるからあつちで遊べ」

じいちは洋服を直す仕事をしていて、お客さん相手によく喋り、笑い、器用な人に見えた。

それに対してはあちは無口で、お客さんが来ても口を結んだままお茶碗を差し出すような人だった。

目が悪く、目付きも良くはなく、畑の仕事が終わるまでは遊んでちやあ困ると平気で言う。

じいちゃみたいに優しく笑えばいいのと思った。

ある日。

その日は天気も良く、何も不満はなかった日だ。

夕飯時。

たまたまちやぶ台に座るとき、私はじいちの左となりになった。ほんのたまたま。

そこはいつもお姉ちゃんの席だったが、せつせとばあちやに何か話しかけていたから、そっちを譲っただけで。

「...ののは違うじゃろ。こっちこっち」

祖父がお姉ちゃんを呼んだ。

それは大きな事ではなかったのかもしれない。

けれど、熱いものが喉をぐつと込み上げて来た。

夕飯のおかずがマズそうに見える。

お姉ちゃんに笑いかけながら、冷たい水を飲むふりをしてお勝手に逃げ込んだ。

泣く、と思った。

泣くな、泣くな。

たまたまだから、じいちゃはお姉ちゃんが好きで…。

どうしようもく込み上げて来る涙と悔しさに、とうとうに自覚して、気持ちが悪くなった。

あの時も、あの時も、あの時も…。

「ののは別の場所であそべ」

もし、その時にママがいるとがめるような視線をじいちゃに向けて、それがイヤだった。

だから笑って。好きじゃないけど笑って。

手が頭に乗った。

ぽんつと置いて、それから何故か冷凍庫にあるつつわから氷を出した。

それをいくつかくれる。

「のの太…食べっか」

ボクは生まれて初めてばあちやに出会ったのだ思った。  
込み上げていた悔しさが…溶けた。

そんなことボクはもう知ってたんだよ。  
でも、

その手が嬉しかった。

明るくてハキハキ喋るお姉ちゃん、二番目のノノ太。

でも、二番目でもいい。

それからもしいちはずうつと変わらなかった。

お姉ちゃんはピンクのサンダルで遊びに行って、ボクは一冊の本を  
ひと夏に三十回は読んだ。

新しい本はまだあのアイテム屋には入らない。

その横で無言のまま、ばあちやがお茶うけの木の皿にりんごのむいたのをトンつと置いたりする。  
それを食べる。甘くて嬉しい。

ばあちゃんに会えた。

二番目のノノは何回も、何回も本を読んだ。

じいちゃんが使うミシンの音を聞きながら。

e  
n  
d

（後書き）

感想等あれば嬉しいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1911f/>

---

二番目のノノ

2011年1月16日09時30分発行